

TOREK 自然農法 ホットニュース

第 187 号 2013. 11. 25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

感激の自然栽培フェア スタッフ 大山朋子

10月27日、中野セントラルパークにて第1回自然栽培フェアが開催され、参加出店数約40のうち、私たちは「TOREKむせひ屋」として出店しました。当日は北風が強く吹いたにもかかわらず、大勢の方がいらっしゃいました。

今回、出店資格が無肥料、自然栽培をしている人、販売物も無肥料、自然栽培で出来たもののみということでした。そして主催者やスタッフ、出店者のやり取りは、お互いライバルというのではなく、みんなで自然栽培を盛り上げていこう！ 広めていこう！ 継続していこう！ という雰囲気でした。栽培方法を誠実に教えてくれたり、始めたばかりなので教えてください、という生産者に出会って、一緒にがんばっていこう、という温かい空気が会場に流れていました。

慣行農法や有機栽培のフェアの場合、肥料に何を使っているのか、技術面など企業秘密になるので、なかなか出店者同士の交流ができないと聞き、自然農法は利他愛の農法ということ、今回初めて一般主催のイベントに参加してひしひしと実感しました。

慣行農法や有機栽培のフェアの場合、肥料に何を使っているのか、技術面など企業秘密になるので、なかなか出店者同士の交流ができないと聞き、自然農法は利他愛の農法ということ、今回初めて一般主催のイベントに参加してひしひしと実感しました。

お米4種、味噌、お茶、根菜、葉物、卵、小麦粉、干しシイタケ、みかんジュース、ジョリフィーユのお菓子と、むせひ屋の品揃えの多さはダントツでした。試食は熊本のヒノヒカリのおにぎり、サツマイモ、サトイモ、また市川生産グループのほうじ茶の試飲と、みなさんに「おいしい」と喜んでいただきました。

他の生産者や来店された方々が、TOREKの土33年、自家採種31年のお米など、土の無施肥無農薬の経過年数、自家採種の年数に驚いていました。また堀さんのお米の食味コンクール金賞受賞の話にもびっくりしていました。生産者が北海道から九州までいることに大変驚かれました。

来店した方々はインターネットやチラシを見て会場に来るという、食への関心度、意識がすばらしく、すでに問題意識をもっている雰囲気、世の中で自然栽培が求められていることを感じました。

会場に来てくださった皆さん、応援してくださった方々、本当にありがとうございました。



りんご自然農法13年(その1) 群馬県 中島敬太郎

りんごの自然農法に取り組んで13年の月日が経ちました。当初、TOREKから「木一本でも自然農法で栽培してみても」との勧めがありましたが、果樹園で生計を立てる私としては「りんごだけは無理です」と5年に渡り断わってきました。産地の青森でも二十数回の農薬散布が当たり前、一般の果樹農家、県の試験場でも、りんごの無農薬は不可能とされてきました。薬を使わなければ2、3年のうちに病害虫等に犯され、木が枯れてしまうのです。また果樹試験場や大学で勉強してきた私は、無施肥という言葉も初めて聞きました。しかしTOREKでりんご農家は私一人だと使命感のような思いで挑戦したのです。

最初は当園の3aの広さで自然農法を始め、翌年からは17aを切り替えることになったのです。また先に自然栽培を行っていた青森の木村秋則さんを訪ね、雪に埋もれたりんご園を視察し、栽培方法を聞くことができました。木村さんの話から、りんごを無農薬で行っていくことは、大きなリスクと背中合わせであることが分かりましたが、岡田茂吉師の自然農法の大きな意味をかみしめ、決意し、自然農法という航海に出発しました。

しかし青森と群馬は気候も違い、青森は雨が少なく寒いのですが、群馬は温暖化のためか高温多湿になってきています。梅雨も長く、病気も増えやすくなっています。りんごの木の台木も違い、青森は



5mほどの成木ですが、群馬はM26を使った3m程度の木なのです。今までも化学肥料を使いませんでしたが、全くの無肥料無農薬栽培となると、早くも予想以上のことが次々と起き始めたのです。

4月下旬に花は咲いてくれましたが、6月には葉に黒い斑点が入り、茶色になるとパラパラと落葉を始める、一番恐れていた斑点落葉病になったのです。7月に病気はますます広がり、辺り一面の木は無残な姿になったのです。本来なら11月まで残る葉が7月で大半が落葉してしまったのです。また冬の剪定では、枝が枯れる腐乱病があちこちの木に多発し、その病気が元気な枝に移らないよう、ノコギリやナタ、ノミを使って枝おろし作業を行いました。腐乱病は、わずかな間に枝や幹の周囲を一周すると、その先の枝は枯れてしまい、それが太い主幹に入ると、木の命が終わりを告げるのです。3年目からは全く花も咲かなくなってしまいました。

良いこともありました。平成13年6月、500円玉ほどの雹(ひょう)が15分に渡って降り続け、祈る気持ちでいると、15秒ほどで当園の場所だけ雹はやんでくれました。周りのりんご園は全滅、大きな被害となりました。その秋の郡の品評会では、りんごを出品できる園はなく、私の出品したりんごは話題を生み、県庁で行なう品評会に吾妻町代表で出し、400点のりんごの中、2位の銀賞を頂けたのです。

平成18年、葉がだいぶ残ってくれ、希望が見えてきたその翌年、再び葉は通常より早く落ちてしまいました。冬の厳しい寒さと、今までの病害虫で弱って、春になっても芽吹いてくる木が少なくなりました。3割ほどの木が枯れてきたのです。この先のこと、今まで頑張ってきたことを思うと、正直張り合いもなく、自信も薄れ、園に運ぶ足は重くなるばかりでした。たくさんの資材をかけ、人手をかけ、何年も収穫もなくなり、マイナスの労働力、これだけ弱くなった木が自然農法に耐えてくれるのか、どこまで研究、そして挑戦すればいいのか、ましてや息子に家業を継いでもらえないのではないかと不安がつつの一方でした。しかしTOREKの方々からの激励の言葉もあり、よし、もう一度頑張らなければと初心にかえり、改めて自分に与えられている役割を強く心に刻みこみました。(次回につづく)

秋の農産展で学んだこと

11月3日展示日、出品者65名、出品数333でした。残暑や台風などに負けず、生産者の愛情によって育った作物が並びました。今年は自家採種への取り組みに着目、半数以上の方がいくつかの作物を自家採種しているようでした。中にはキヌサヤ20年、ダイコン14年などあって、驚きました。

中島さんのりんごのビン実験では、自然農法のりんごは原型をとどめたまま乾燥し、匂いはほとんどありません。しかし市販のほうは溶けていて強烈なおいでした。また熊本の稲作生産者のお話を聞くコーナーがあり、今年もウンカの被害にあいましたが、自然農法の稲は無事で、枯れてしまったり、早めに収穫した慣行農法の稲との違いを学びました。また有機から自然農法に切り替えた生産者の食に対する真しな姿勢や勇気にも感動し、安心安全な食を考えていく大切さを再認識しました。(編集部)



クッキーで元気になった孫! 埼玉県 峰広アツア

9月に入り、いつも食欲旺盛な2歳8カ月の孫に咳と微熱が続き、そのうえ何も食べたくない様子で、元気がありませんでした。そこで先日買ってきたジョリフィーユのクッキーを1個あげてみると、「おいしい」と言って食べ、「もっともっと」と言って、1袋全部食べてしまいました。それをきっかけに食欲が戻り、元気にさせていただきました。ありがとうございました。

お知らせ

- ★ 自然農法勉強会 12月7日(土) 午前の部 10:30~ / 午後の部 19:00~ (別院講堂)
- ★ 自然農法頒布会 12月15日(日) 東中野会場 10:00~ (売り切れ次第終了)
- ★ 自然農法頒布会 12月16日(月) 鎌ヶ谷会場 11:00~ (売り切れ次第終了)

無施肥無農薬栽培物の販売予定

12月3日 於: 伊都能売会館

生産者の方々が直接販売されます。 東京都八王子市長房町57 042-665-6369

- 長柄山自然農園 : 卵、シイタケ ● きじま平自然農産 : 白米、モチ米、本露金時、黒豆、黒小豆、フルヘリシヤム
- 市川生産グループ : 煎茶、ほうじ茶 ● 菜園金野 : サツマイモ、里芋、生姜、カブ、大根、京菜
- 中島農園 : 下仁田ネギ、長ネギ、大根、人参、小松菜、生姜、ハウレンソウ、ジャガイモ、梅干
- ジョリフィーユ : カボチャのモンブラン、ちよこっとティラミス、カスタードプリン ほか

お問い合わせ先: 編集部 針貝 FAX: 03-3369-3324 e-mail: naturefarming@torek.jp
TOREK活動のホームページもご覧ください。 <http://www.torek.jp>